

■特別セッション

将来の衛星地球観測

Future Missions of Satellite Earth Observation

1) 日時・場所:

11月27日(水)9:00~11:00(120分) A会場

2) 司会:

樋口篤志(千葉大)

3) 概要(4~5行):

急速に進行する地球環境の変化に対して、人類が持続的に発展していくために衛星による地球観測は有効な手段となりうる。そのためには継続すべき観測を維持するとともに、その時代の社会的・科学的要求に応える観測の実施、及びそれらを支える技術開発が必要とされている。この課題に対し、26の学会・関連団体からなる「今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース会合・リモートセンシング分科会(TF)」では、近い将来実現すべき我が国の衛星地球観測ミッションについて学術的立場から提言する「地球観測グランドデザイン」を策定している。これが政府の宇宙基本計画工程表見直しの際の基礎資料となるよう、TFとして尽力している。グランドデザイン改訂の一環で、科学研究・実利用の両分野から新たなアイデアを吸い上げ、分野横断的に議論し精練する事を目的として、地球観測ミッション提案の試行公募を JpGU でのセッション提案等を通じ、これまで行ってきた。本 TF 特別セッションではこれまでの TF の歩み、および提案されたミッション開示等を通じ、専門家集団であるリモセン学会でのより深い議論を期待したい。

4) プログラム:

1. ○高橋暢宏(名大)

「リモートセンシングタスクフォース(TF)グランドデザインにおけるミッション提案の概要」

2. ○江口菜穂(九大応研)

「小型衛星コンステレーションによる水蒸気・同位体・氷雲・放射収支観測ミッション/THz 氷雲・水蒸気小型衛星ミッション」

3. ○石井昌憲(都立大)・他 16名

「衛星搭載ドップラー風ライダーによる全球風観測」(S1)

4. ○金丸佳矢(NICT)・益田英知・森本祐生・山地萌果(JAXA)・高橋暢宏(名大)
「小型降水レーダコンステレーションー小型 SAR 衛星を用いた降水観測への応用ー」
5. ○本多嘉明(千葉大)・青木輝夫(極地研)・中島孝(東海大)・平譚享(極地研)・堀雅裕(富山大)・梶原康司(千葉大)
「地球環境変動(地球温暖化を左右する全球の放射強制力や生態系変動)の監視・解明に関するミッション(GCOM-C 後継)」
6. ○日置壮一郎(リール大)・中田真木子・佐野到(近大)・向井苑生(京都情報大学院大)
「高空間分解能・偏光多方向観測による雲・エアロゾルモニタリングと物理過程解明」
7. ○沖一雄(京都先端科学大学・東大)・木村俊義(JAXA)
「静止常時観測衛星」
8. ○今井靖晃・祖父江真一・渡邊知弘・石塚直樹・木村篤史・大橋真・杉崎健一(RSSJ 実
利用委員会)
「災害対応・ベースマップ、環境モニタリングに資する高分解能光学・SAR およびライダー
ミッション」
9. 宇宙からの地球観測を考える会 受賞式

※S1 の発表については、論文集に論文要旨が掲載されています。